

PRAEVIDENTIA DAILY (10月17日)

昨日までの世界：嵐のあとの静けさ？

昨日は、欧州時間に株安、中長期債利回り低下、原油安の動きがあり、ドル/円が一時 105.49 円へ、またユーロ、豪ドル、NZ ドル、カナダドルが対米ドルで下落する局面がみられた。もっとも、その後発表された米経済指標が前日とは反対に軒並み市場予想を上回ったこともあって、米中長期債利回り、株価や原油価格が反発したことから、ドル/円は 106 円台を回復し前日引け値を上回った。他方、豪ドル、NZ ドルの対米ドル相場の反発は限定的で、前日比で下落した。

米経済指標では、新規失業保険申請件数が 26.4 万件へ予想外の大幅減少、鉱工業生産が+1.0%と予想以上の伸びとなり、フィラデルフィア連銀製造業サーベイも 20.7 と前月からは悪化したのが市場予想を上回った。この間、目を引いたのは Bullard セントルイス連銀総裁発言で、これまでは早期利上げ開始支持派だったが、昨日はインフレ期待の低下が深刻な事態で、量的緩和縮小の停止や再拡大の可能性を示唆するなど、ハト派的な発言があった。但し同時に、利上げ開始時期は来年 1Q という見方は維持しているとも発言、この面ではタカ派姿勢が維持されている（同総裁は来年も投票権なし）。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

変化する通貨ペア	変化する金利	変化する金利	変化する金利	変化する金利	変化する金利	変化する金利	変化する金利	変化する金利	変化する金利	変化する金利	変化する金利	変化する金利
ドル/円	+0.4	+0.03	+0.03	+0.00	+0.06	+0.06	+0.00	+0.0	-2.2	+1.2	+0.8	
ユーロ/ドル	-0.2	-0.03	+0.01	+0.03	-0.00	+0.05	+0.06	-0.6	+0.0	+0.8	+0.07	
ポンド/ドル	+0.4	+0.10	+0.13	+0.03	+0.08	+0.14	+0.06	-0.3	+0.0			
豪ドル/米ドル	-0.8	-0.09	-0.06	+0.03	-0.19	-0.13	+0.06	+0.0	-0.7	+0.5		
NZドル/米ドル	-0.4	-0.06	-0.03	+0.03	-0.13	-0.08	+0.06	+0.0	-0.7	+0.5		
米ドル/加ドル	+0.0	+0.02	+0.03	+0.01	+0.05	+0.06	+0.01	+0.0	+1.2	+0.5		

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。
(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：カナダはインフレで米国に追随するか

きょうの注目通貨：USD/CAD ↑

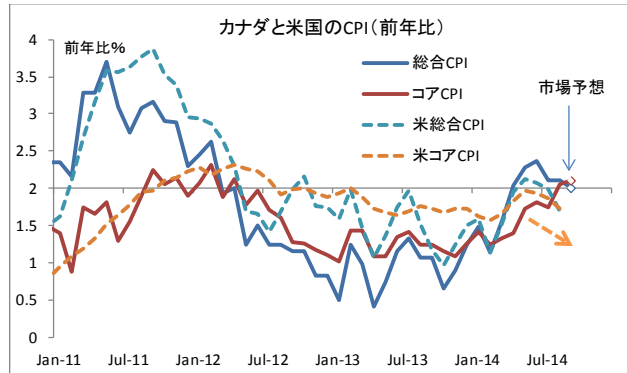
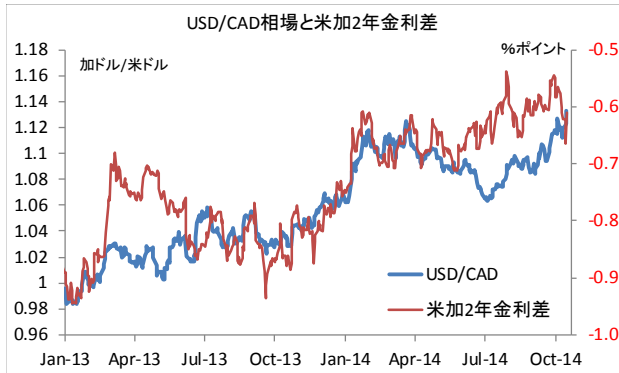
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
黒田総裁発言	15:35			全国信組大会で挨拶
Yellen・FRB 議長発言	21:30			
米 9 月住宅着工件数	21:30	95.6 万件	100 万件	
米 9 月住宅建設許可件数	21:30	100 万件	103 万件	
カナダ総合 CPI 前年比	21:30	+2.1%	+2.0%	インフレ目標は 1-3%
同コア CPI 前年比		+2.1%	+2.1%	
Rosengren ボストン連銀総裁発言	21:30			ややハト、来年も投票権なし
米 10 月ミシガン大消費者信頼感	22:55	84.6	84.1	

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

ドル/円は引き続き米株価睨みの不安定な状況が続くそう。上昇に転じれば 106 円台後半への持ち直しもある一方、再び下落すれば 105 円台で今週を引けるリスクも残っている。

材料面ではカナダ CPI が注目だ。カナダ CPI は 4 月分以降、カナダ中銀のインフレ目標の中心 (+2%) へ一気

に上昇し、7月初までのカナダドルの上昇の一因となった。但しこのところ加速が一服し前年比伸び率は2%程度で横ばい傾向となっている（下図を参照）。どちらに振れるかは分からないが、世界的にみると、ユーロ圏や英国だけでなく米国や中国でもインフレ鈍化傾向が見られる中、カナダもインフレが市場予想を下回り鈍化するリスクがどちらかという高く、カナダドル安材料となりそうだ。原油価格の下落傾向もカナダドルにとって逆風だ。7月以降、米ドル/加ドル相場は米加2年金利差に追随して上昇してきた（下図を参照）。9月末以降の米金利の急低下にカナダの金利低下が追いつかなかったため、米加金利差と比べ米ドル/加ドル相場は足許カナダドル安となっているが、恐らく、カナダCPIが市場予想を下回れば、カナダ金利の低下により米加金利差が米ドル/加ドル相場にむしろ追従してカナダドルに不利な方向に動きそうだ。



来週の注目通貨：USD/JPY ↓、

来週の指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
<20日>				
<21日>				
豪 RBA 議事要旨	9:30			
中国 9月固定資産投資・年初来前年比	11:00	+16.5%	+16.3%	
中国 9月鉱工業生産・前年比	11:00	+6.9%	+7.5%	
中国 9月小売売上高・前年比	11:00	+11.9%	+11.8%	
中国 3QGDP 前年比	11:00	+7.5%	+7.2%	
米 9月中古住宅販売件数	23:00	505 万件	509 万件	
<22日>				
本邦 9月通関貿易収支・季節調整前・円	8:50	-9485 億		
豪 3Q 総合 CPI 前年比	9:30	+3.0%		インフレ目標は 2-3%
同コア加重中央値		+2.7%		
同コア刈込平均		+2.9%		
米 9月総合 CPI 前年比	21:30	+1.7%	+1.7%	
同コア CPI 前年比		+1.7%	+1.7%	
カナダ中銀金融政策決定	23:00	1.00%	1.00%	
<23日>				
NZ3QCPI 前年比	6:45	+1.6%		インフレ目標は 1-3%
中国 10月 HSBC 製造業 PMI 速報	10:45	50.5		
ユーロ圏 10月コンポジット PMI	17:00	52.3	51.7	
<24日>				
NZ9月貿易収支・NZ ドル	6:45	-4.723 億		
中国 9月住宅価格・前年比	10:30	+0.5%		昨年末の+9.9%がピーク
米 9月新築住宅販売件数	23:00	50 万件	48 万件	

（出所）トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

来週は世界景気減速懸念との関連で、震源地の一つである中国の主要経済指標が注目される。特に3QGDPが7.0%に近い伸びに留まったり、住宅価格が前年比でマイナスに転じる場合には、中国の景気減速が当局の制御不能になっているリスクが意識され、更なる世界安、主要国中長期債利回り低下を通じて、ドル/円の下落と豪ドル、NZドルなどの下落に繋がりとみられる。

他方、中国経済指標が市場予想を上回ると、市場が落ち着きを取戻し、底固めに入る展開もあり得る。逆に例

例えば GDP 成長率が+6.9%と 7%を割り込むような「悪過ぎる」場合には、中国の景気刺激策（利下げ、預金準備率引き下げなどの金融政策、および財政拡大政策）への期待感が高まり、この場合も市場の下支えに繋がるというシナリオもあり得る。

其の他の材料では豪 3QCPI が注目だ。総合 CPI が既に 3%とインフレ目標上限に達していることから、更に上昇するようだと、RBA が輸入インフレを警戒し豪ドル安容認姿勢を転換するリスクが意識され、豪ドル買い要因となる。但し、上述の中国経済指標で世界景気減速リスクが更に高まっている状況だと、豪 CPI の上振れでも RBA のタカ派化期待（懸念）は高まらないだろう。

ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641